

令和4年度 第2回大田区障がい者差別解消支援地域協議会会議 議事録

(要旨)

日時：令和5年3月23日（木）13時30分から15時30分

出席者：石渡委員、閑製委員、荒木委員、宮田委員、宮澤委員、中越委員、

名川委員、伊藤委員、堀江委員、山田委員、星山委員、杉山委員、

山口委員

区出席者：福祉部長、障害福祉課長、障害福祉サービス担当課長

1 開会

2 議題

(1) 公共交通機関の合理的配慮などの取組みについて

(東京タクシー・ハイヤー協会 小池部長)

(株式会社グリーンキャブ 吉村課長)

- ・資料1の内容について、小池部長、吉村課長より説明。

福祉的な利用を想定するタクシーには、福祉タクシーと

ユニバーサルデザインタクシー（以下「UDタクシー」という。）があり

ます。福祉タクシーは予約をとって利用いただき、UDタクシーは普通に

まちなか はしって はこがた くるま となつています。UDタクシーは徐々に増加してあり、東京では約1万7千台が走っています。

公共交通機関には、鉄道、バス、タクシーなどがありますが、タクシーは、他の公共交通機関と異なり、出発地から目的地までをつなぐことができるという特徴があります。また、UDタクシーは、介護タクシーと異なり、予約が必要ではありません。また、鉄道やバスの時刻表のように運航時間がきまっているわけでもないという自由度の高さも特徴です。

UDタクシーを増やすだけではなく、障がい者、高齢者、妊婦などの配慮を必要とする方を含め、すべてのお客様に対して、安心安全、快適な輸送サービスの提供を行うために、乗務員に対する「ユニバーサルドライバー研修」を行っています。

ユニバーサルドライバー研修では、各障がい特性への理解やコミュニケーションの重要性、差別解消法についてなどを学びます。

障がいのある方に対しても、まずはコミュニケーションをきちんと取り、タクシーへの乗り降りの時に何かお手つだい+出来ることはあるか、交通状況や目的地までのルートの説明など、障がいのある方の不安をやわらげるたいおうをおこなうことを研修の中で伝えていきます。しかし、タクシー乗務員の中には実際に障がいをお持ちの方を乗せたことが少ない、あるいは

は経験がない者もあり、乗せる側としてもどのようにコミュニケーション
や対応をしていけばいいのか不安に感じていることから、研修の実施は
大切だと考えています。

いしわたかいちょう
(石渡会長)

ソフト面でのユニバーサルが大切です。また、コミュニケーションが大切
であるという点を強調していただきましたが、お互いの不安を取り除くた
めに必要なことだと思います。

ほしやまいいん
(星山委員)

視覚障がい当事者ですが、タクシー利用について、手をあげてもなかなか
止まってくれなかったり、目的地まで遠回りされたり、目的地が一緒なのに
料金が全然違うなど、あまりいい印象を持っていません。そのため、
ドライバーに対してユニバーサルドライバー研修を行っていただくのはあ
りがたいし、私たちも、きちんとしたコミュニケーションや対応を求めています。

いしわたかいちょう
(石渡会長)

ユニバーサルドライバー研修はどのくらいの方が受講しているのか教えて
ください。

(吉村課長)

現在約6万5千人の方が受講しており、現在も徐々に増えています。また、タクシー利用について、ご不便・ご迷惑をおかけしてすみません。遠回りの件については、ドライブレコーダーで経路の確認ができるので、通報いただければ確認させていただきます。また、視覚障がいをお持ちの方に限らず、渋滞などの状況やルートの説明をしながら、お客様の不安を取り除いていくことがタクシー乗務員の義務と考えています。お客様の方でも、いつもと違う道を走っているような場合は遠慮せずにお声かけください。

(宮澤委員)

ユニバーサルドライバー研修を行っているということですが、講師は障がい当事者が行っているわけではないと思います。一般の方同士では分かりにくいところもあると思いますので、講師に障がい当事者を入れることを検討してください。また、大田区障がい者差別解消支援地域協議会についてはタクシー業界だけではなく、他の公共交通機関の電車やバス事業者にも参加いただき議論を深める取組みを検討してください。

(吉村課長)

ユニバーサルドライバー研修の講師になるための研修の際に、障がい

当事者の方に参加いただき、ご意見を伺っています。私もこのような会議にできるだけ参加させていただき、そこで得た情報を研修の中でフィードバックするよう努めています。

ユニバーサルドライバー研修に障がい当事者の方をお呼びしても、その障害のことだけの話になる可能性があるため難しいのではないかと思っています。

いしわたかいちょう
(石渡会長)

障害特性はさまざまですが、タクシー乗務員の方が障がい者を乗せる機会があまりないということであれば、研修の際に障がい当事者に参加いただき、実際に乗務員の方と障がい者でコミュニケーションの体験をして、その情報を共有してもらうことも一案と思います。

みやざわいいん
(宮澤委員)

障がい者に対しての考え方を少し変えていただくといいと思います。ユニバーサル社会に対する障壁には、段差などの物理的障壁、制度や慣行などの障壁、偏見や無理解などの考え方の障壁があります。これらの障壁の原因は障がい者自身にあるのではなく、障がい者を取り巻く社会にあるという考え方が「社会的障壁」です。

そういった考え方に立てるような研修を行ってほしいと思います。

よしむらかちよう
(吉村課長)

社会的障壁の考え方については研修の中でも周知をしていきたいと思
います。

みやたいいん
(宮田委員)

福祉タクシーを利用する際に、乗るたびに料金が違うようですが、料金
体系のようなものがあれば教えてください。

こいけがちよう
(小池部長)

東京タクシー・ハイヤー協会是一般タクシーの会社が集まったものです。

そのため、福祉タクシーを専門に行っているところはよくわかりませんが、

おそらく運賃料金とは別に、介護料金的なものや車両の設備の費用が上乗せ

されて設定されていると思います。また運賃についても、ハイヤー料金を

ベースにしていると思いますが、いわゆる幅運賃として事業者が設定できる

ようになっていると思います。

みやざわいいん
(宮澤委員)

タクシー料金について、手帳を持っていると一割引きになることは間違い

ないですか。また、引いた一割分はドライバーが負担すると聞きましたが本当ですか。

よしむらかちょう
(吉村課長)

(株)グリーンキャブでは一割分は会社が負担しています。割り引きの一割分については、どこから補填されるわけではないので誰かが負担することになります。

しょうがいふくしかちょう
(障害福祉課長)

個人タクシーの方は、自身が事業主となるため、自分で負担していると聞いたことがあります。

ながわいいん
(名川委員)

東京タクシー・ハイヤー協会の取組みについて敬意を表します。今後も開催回数や対象人数を増やしながら進めてほしいと思います。そのうえで、もう少し現場レベルでの障がい当事者との対話の機会を設けていただき、お互いの理解につなげていただきたいと思います。

ほりえいいん
(堀江委員)

ユニバーサルドライバー研修について、介護に関することや車いすの扱い方、コミュニケーションの取り方などに取組んでおられますが、時間配分

等^{とう}はどのようにになっているのか^{おし}教えてください。

(吉村^{よしむら}課長^{かちょう})

一日^{ついたち}かけての研修^{けんしゅう}となっています。内訳^{うちわけ}としては、バリアフリー^{ばりあふりー}に1時間^{1じかん}、障がい者^{しょうがいしゃ}への接客^{せつきゃく}で1時間^{1じかん}、障がい理解^{しょうがいりかい}と介助^{かいじょ}で1時間^{1じかん}、介助^{かいじょ}やコミュニケーション^{こみゆにけーしょん}など技術^{ぎじゆつ}的な内容^{ないよう}で3時間^{3じかん}、疑似^{ぎじたいけん}体験^{たいけん}を含^{ふく}めたシミュレーション^{しみゅれーしょん}、ディスカッション^{でいすかつしょん}で1時間^{1じかん}となっています。最終^{さいしゅう}的に自己^{じこ}診断^{しんだん}のためのチェックリスト^{ちえっくりすと}やアンケート^{あんけーと}を使い、理解^{りかい}度の確認^{かくにん}を行^{おこな}っています。

(石渡^{いしわた}会長^{かいちょう})

今回^{こんかい}、タクシ-事業者^{たくしーじぎょうしゃ}の方^{ほう}とこのような機会^{きかい}を作^{つく}っていただけ^{ただ}たことはとても貴重^{きちょう}でした。タクシ-業界^{たくしーぎょうかい}の乗務員^{じょうむいん}の皆さん^{みなさん}は様々^{さまざま}な体験^{たいけん}をされていると思います^{おも}いので、みんな^{みんな}で共有^{きょうゆう}できるような場^ばがある^あるといいと思^{おも}いました。

差別^{さばつ}を無く^{なく}すためにはお互^{おたがい}いの歩み寄^{あゆみより}りが必要^{ひつよう}だと思^{おも}います。そのため^{ため}にはコミュニケーション^{こみゆにけーしょん}がととても大切^{たいせつ}になってくることを感じ^{かんじ}ました。

今回^{こんかい}、タクシ-事業所^{じぎょうしょ}の取組^{とりぐみ}についてお聞き^{おきき}することができ、これだけ^{だけ}のことをやっていただ^{ただ}いでいることに感動^{かんとう}しました。これからもお互^{おたがい}いに努力^{どりよく}を続け^{つづ}け、いい関係性^{かんけいせい}が築^{きず}けるように進^{すす}めていきたくと思^{おも}いました。

(2) 大田区に寄せられた令和4年度の相談について (令和4年度上半期)

- ・資料2について、小西障害福祉課長から説明

ほしやまいいん
(星山委員)

相談事例の中に、視覚障がいの人からの相談が一つも上がっていないことが
気になりました。相談する際にどこに相談していいのかわからないのではない
でしょうか。障害福祉課は少し敷居が高いので、もう少し気軽に相談できると
ころがあるといいと思います。

いしわたかいちよう
(石渡会長)

相談しやすい環境を整えることは今後の協議会の課題だと考えています。

しょうがいふくし
(障害福祉課長)

先ほどの相談事例について捕捉します。今回の事例は、障がいのある方が
障がいを理由とした差別や合理的配慮の不提供を受けたものであり、虐待や
障がいを理由としない対応相談などは含まれていません。

なお、書面参加いただいている高橋委員からは、窓口相談に関する

フローチャートのようなものを示すことが大切です。川崎委員からは、お互い

に支え合いながら社会生活を送っていることを理解することが大切です。安齋

委員からは、理解啓発活動が大切です。山田委員からは差別解消法の周知も必要です。その他に、学齢期、成人期における障がい理解啓発への取り組みが重要ですとのご意見をいただきました。

(3) 障がい理解啓発のための出張授業の報告

- ・資料2について、小西障害福祉課長から説明
- ・書面参加委員の山田委員から、今回の出張授業の感想の中で、子どもたちから「障がい者は大変なんだ」という言葉が多く見られることが、当事者として気になりました。また、障害啓発の目的が達成できたと考えているのか教えていただきたいとの意見をいただきました。

(閉製委員)

相手に、リンゴなど具体的なことを伝えることは容易にできますが、「ちょっと」や「もっと」のような気持ちを表すような表現は、人それぞれの感じ方なので伝えることが難しいです。また、グループワークでも、周りから「もっと早く」と急かされたり「どうしてきちんとできないの」などプレッシャーをかけられながら、短い時間で作業を行う体験をしました。ここでは、障がいのある人は、よく意味の分からない言葉を浴びせられながら、何か作業をしなくてはならないという大変さもわかってほしいという狙いがありました。ま

た、言葉かけ一つで障がいのある人が行動しやすくなることを知ってもらうという狙いもあり、志茂田福祉センターからは、様々な工夫を行いながら障がい者の作業などを支援していることを話していただきました。

今回実施した志茂田小学校の校長先生から、引き続き実施してほしいという要請もあったことから、一定の成果はあったと感じています。

すぎやまいいん
(杉山委員)

志茂田福祉センターでの取り組みについて感心しました。障がいのある人に対して工夫をすることで、取り組む環境を整えられるということをもっと周知してほしいと思いました。

いしわたかいちよう
(石渡会長)

障がいのある方それぞれに、どういう工夫をしたらいいのか、そういったことを専門職だけではなく、地域の方々と一緒になって考えていくことが、本当の意味での障害理解であると感じました。

3 その他

4 へいかい 閉会